

東国名勝志
一

ル 3
3659
1





東國名勝志叙

東方我神淵也百々名傳なり夫佳境

勝景れ多し心賞るる名勝の是をときし

あはれ神城列お板也東西れ美じて是を

東を冥東し不佞往來東都み於隱に

其初洛中ふ川の佳勝風景乃秀異修り

書きて旅神み納るる故典事記程

録し新編今年月園錦童の夏遊子



文多あり



有りて先之國画ニ寫さるる夏を好む心は
 其奥を古くは好む考へ或は其土人の考へ
 東海の限をも國画成りぬ一夏を好む心
 は宛も面下其地を好む心地を想像する人
 なる由是は忘れぬ人のありて極本は好む心
 事ふゆりぬるは好む心と序する
 寶曆十一年
 春正月
 鳥飼敏雅子
 鳥飼
 西澤
 早稲



日の出此濱



松前

松前志摩守殿
御城下上の園御指と
いつるお花の地あり
此下より出る名産
檜皮 熊皮 鷹
あざし 麻 三好ここの
あつと忠 靴 干 麩
昆布 漆 白鳥
松屋の商人定にまろ
糸島の大漆より浦の
糸の家ハ昆布あまの
のさばるへまろり
徳田のあまのたか



世還かありだ

外の海は深人老

位あまこけ

さびき浦より

松奥の

その海は

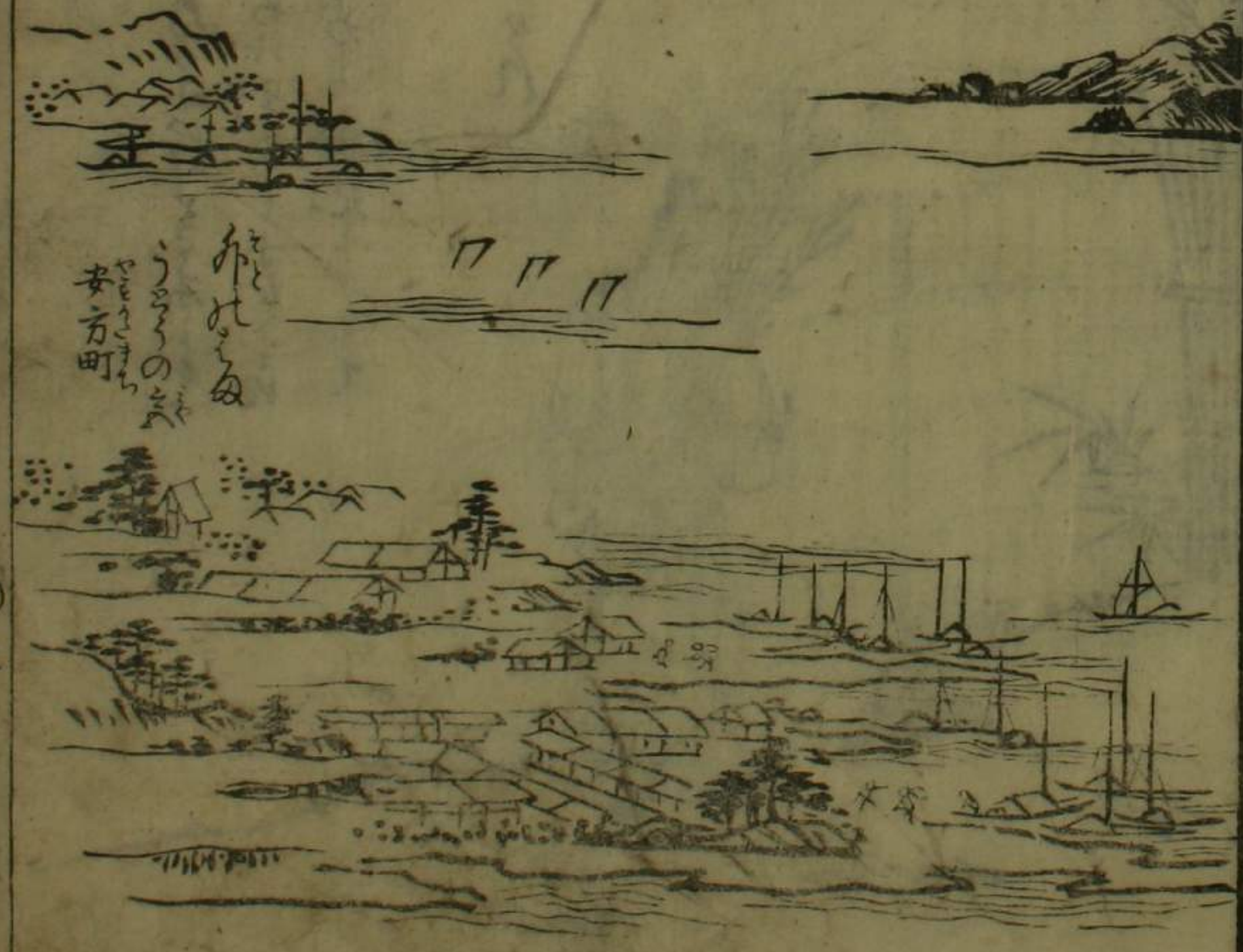
うぶこり

ふら 女これ

名代

ろくせ

たろく



外れ
うららの
安方町



いそいで
 けの
 けとよ
 おきの
 すうが
 山
 け
 け

の

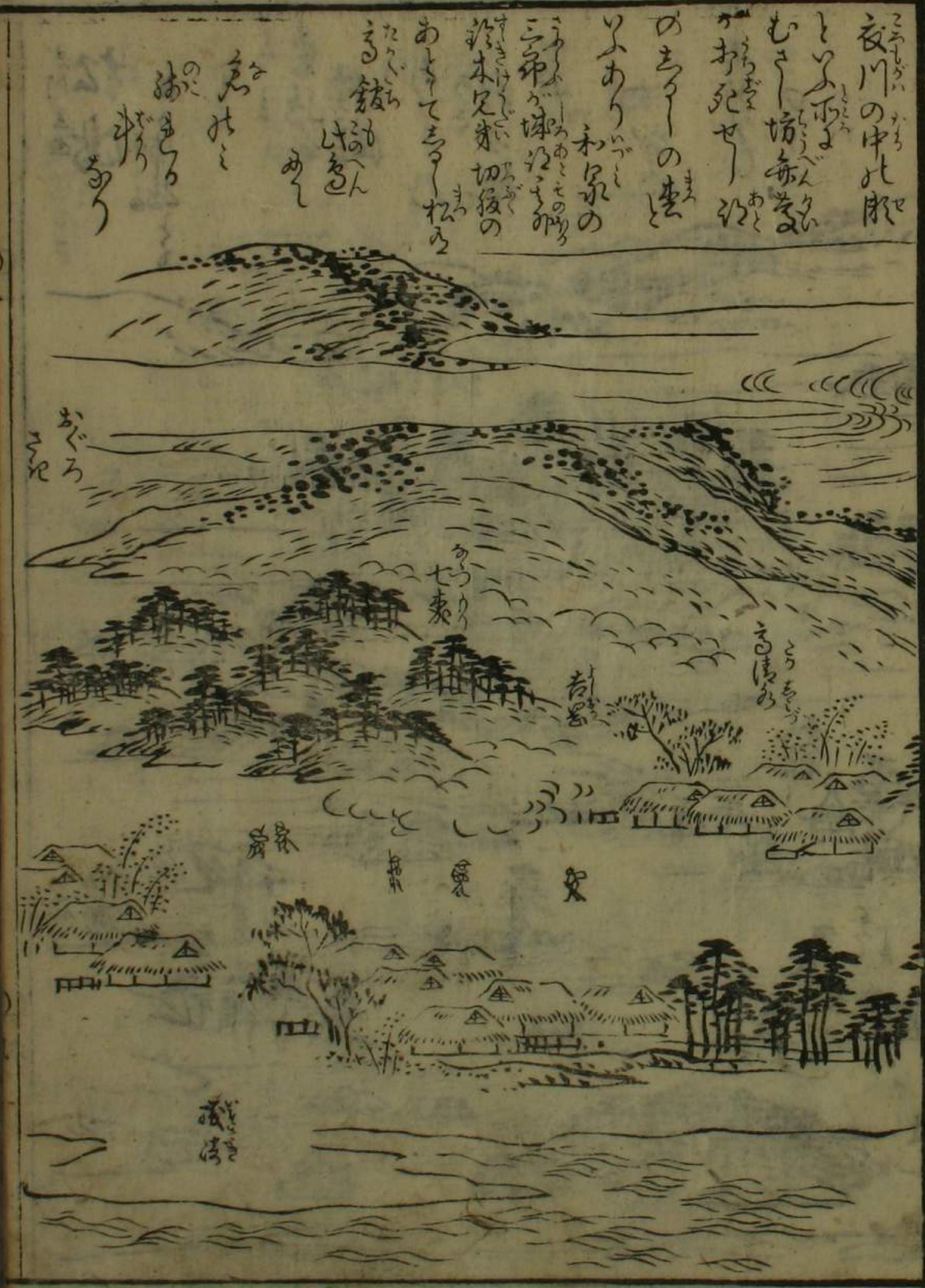
園



いそいで
 けの
 けとよ
 おきの
 すうが
 山
 け
 け

盤
 提
 山

盛
 城



夜川の中此所
 としつら
 むさう坊
 がお死せり
 のまろの
 りあり
 和泉の
 三弟が
 於本足
 あとて
 多
 けい
 急
 海
 あり



夜川
 和泉
 三弟
 本足
 あり
 急
 海
 あり

一の
 五



金花山

すなごの

内代

兼人

転

みち

あしき

まがらう

ちの浦

聖武帝此所

みちのくより

転

あしき

合

三子

文殊野

此野をこれ秋

錦を礼さ

〜く〜

〜

いあ〜

お仲々長捲

〜

今ハ廣野に小松系

〜

名の〜



〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜



文治二年
 鎌倉幕府成立
 此城
 打たせり
 人

京見山
 目のかよふ
 京地
 多し



大木戸

山見國

伊達大市
 伊達の
 下
 細の
 実

鹿
 新
 道



伊
 細の
 実

かよ

ゆ

現
 の
 実

経
 ぬ



依着を以て
 丸山の
 城

みるけの
 志のふ
 りらすり
 ぬれ也
 乱れ
 志のふ
 りらすり
 ぬれ也



志のふ
 摺

志のふのほり
 けのふのほり
 志のふのほり

今にこけ
 其の志
 志のふ

志のふ

浅香山

時中らて海家

しご積乃 ぬえだ

海香れ山々 くのうひぬん

海香の沼

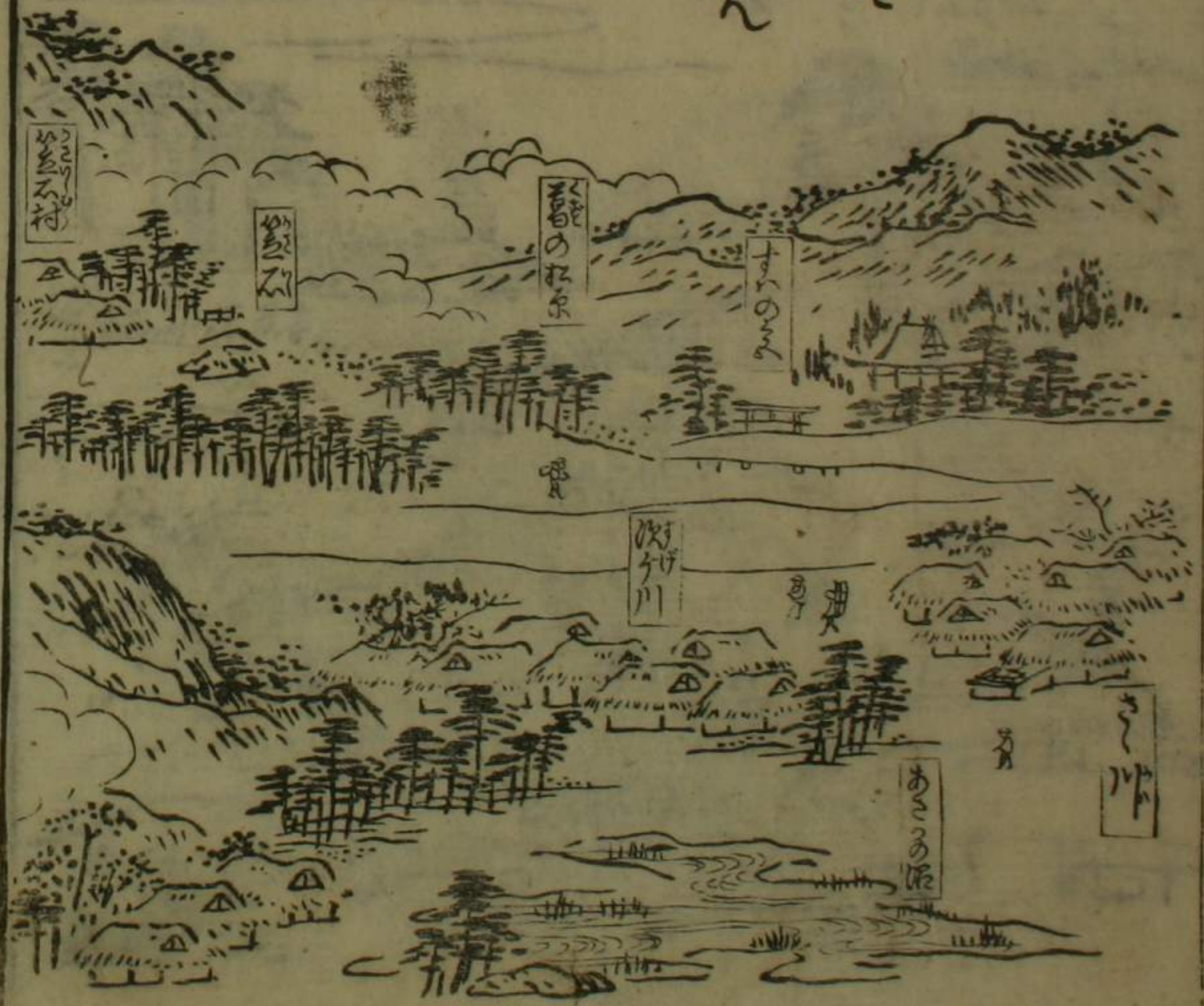
陸奥美津

あさみの沼乃

花うら

かひらら人

なす くのん



信玄山

かやと山

西の窓乃

あさみの

石川城山

かまひ ちりきて

つめけ あららん

昔れ松系

おのなかれ

人まららる

ねららる

いささ

あつれ



了

柳の影

みらねのこふ

清水のこふ

柳陰

志げ

さらさら

つる

右のこふ清水の流るるに

影に名あるる家に

付きて大木の柳に

竹垣ゆいてむらめ

柳の影



乃乃志の河

都賀全権印

